

田辺聖子文学館ジュニア文学賞について

シエアと表現

大阪樟蔭女子大学 学長 北尾 悟

第10回田辺聖子文学館ジュニア文学賞への多数のご応募ありがとうございました。応募部門を小説・エッセイ・読書体験記とし、「長文を書く」という表現方法に特化した文学賞に前回からリニューアルしました。部門を絞ることで応募作品数の減少が懸念されましたが、前回は三部門すべてで応募数が増えました。今回、応募数は減少しましたが応募校数は増加し、北海道から沖縄まで全国的な、いや今回米国からも応募があり世界的な広がりを感じ、うれしく思います。また学校賞への応募も中学校で大幅に増え、早い段階からの表現力強化に学校現場で取り組んでいる一つの証を示していただいたものと考えています。

最近、「シエア」という言葉をよく耳にすることが多くなりました。「分かつこと」「共有すること」という意味ですが、モノ（購入・所有）ではなく、コト（利用体験）に重きを置く価値観が社会に広がっています。例えば、民泊で「部屋をシエア」し、フリマアプリで「洋服をシエア」し、ライドシェアで「車をシエア」するなどが挙げられ、今後、「買って消費する」から、「使っていないものはシエアする」という生活スタイルの変化が予想されます。

このトレンドの背景には、個人同士が信頼できるようになってきたことが挙げられます。しかしながら、信頼関係を築くためには相手に自分のことを知ってもらう必要があります。そのためには自分自身の考えなどを相手に理解してもらうための表現力が求められます。表現力を高める王道は、常日頃から読書にいそしみ、文章を書くことの習慣づけをすることだと思います。今回応募された中高生の皆さんは、これからも読書と「書く」という習慣を続け、表現力をさらに高めてください。今後、「シエア」社会で活躍する若い人々には、高い表現力で多くの人々と信頼しあい、明るい未来社会を築くことを願うばかりです。

最後に、お忙しい中、本文学賞の主旨を理解され、将来性豊かな中高生の指導にあたられた先生をはじめ学校関係者の方々、ならびに、本文学賞の運営にご尽力いただいた多くの皆様に厚く感謝申し上げます。今後、本文学賞を通して学校関係のみならず社会への貢献により一層努めてまいりたいと考えています。更なるご理解ご協力をよろしくお願い申し上げます。